

先輩研修医の声

平成30年6月

幡多けんみん病院での研修も1年が過ぎました。医師免許は取得したものの、右も左もわからない中で研修が始まり、自分で出来ることが増えれば、その分まだ出来ていないことが目につくようになるのを繰り返した1年でした。本当にあっという間でした。そんな中でも着実に前に進んでこられたのは、先生方やコメディカルの方からの確な指導をいただけたからだと思います。「早く色々出来るようになりたい」という思いがある反面、「すぐに出来るようになることばかりではない」と焦ってしまうことが多々ありました。そのたびに先生方やコメディカルの方が声をかけてくださり、「今、目の前にある課題をひとつずつ解決して行けばいい」ということに気づくことが出来ました。先生方、コメディカルの方との距離が近い幡多けんみん病院であったからこそだと痛感しています。

もうひとつ幡多けんみん病院の特徴として、若手医師が増えてきているということが挙げられます。当院は高知大学の関連病院になっているので、大学から5~6年目の若手医師が派遣されてきています。研修医としては、年齢の近い医師の存在は大きく、より質問がしやすかったり、相談に乗ってもらいやすかったりと、研修しやすい環境となっています。幡多けんみん病院で研修する新しい強みと言えると考えています。

今年度は研修医1年目の後輩たちが6名も入ってきてくれました。昨年自分が教えていただいたことを後輩たちに伝えていけたらなと考えています。また、自分もまだまだ未熟なので、あと1年間の研修を精いっぱい行い、悔いのない研修にしたいです。そしていずれは幡多地域に恩返しができるよう経験を積み、また幡多けんみん病院に戻ってきたいと思っています。

【初期臨床研修医2年目 高畑翔太】



幡多けんみん病院での研修も、もう一年以上が過ぎました。去年一年で一通りの必修科での研修を終え、何となくでも患者さんの全体像をつかめるようになったかな、と思います。初めは何もわからないし、自分が何をわかっていないのかも掴めない状態で病院にいて、ただ指導医の言うことに従っていたのを覚えています。色々な患者さんを担当し、治療が上手くいったり上手くいかなかったりを目の前にするうちに、だんだんと自分に足りない必要なものや興味のある疑問点がわかるようになってきました。

興味のある内容は自分で書籍を買い勉強するなり、指導医あるいはコメディカルの方々に聞くなり、誰かに言われて調べるのではなく、自分から能動的に学習し疑問を解決して日ごろの診療に生かそうとする姿勢が身についてきたように思います。医師として歩き出したばかりの去年度と違い、少しは自分が医師であるという自負を持って患者さんと向き合うことができるようになりました。働き始めて1年が経ち、看護師さんやコメディカルの方とも親交を持つことで自分も病院の一員としてそこに存在し、病院に溶け込んで働いているという気にもなりました。1年の研修を通じて手技や知識も向上

先輩研修医の声

平成30年6月

し、自分ができることも増えたため、看護師さんからも声をかけられることが増え、それも自分がチームの一員として認められたようで嬉しく思います。

また今年は新たに6人の研修医が幡多けんみん病院へ採用され、自分に後輩ができたことも大きな違いになります。薬や検査のオーダーの仕方など、今からすると何でもないことでも、やったことのない最初は全くわからないことを聞かれることもあり、自分もこうだったと初心を思い出します。後輩からの質問を受けたり、覚えてたの知識を復習がてらに自慢げに披露したりと、自分だけでなく周りの勉強の一助になれるようにと身の引き締まる思いです。

【初期臨床研修医2年目 山崎大智】



幡多けんみん病院での研修医生活も始まって一年が経ちました。元々私が幡多けんみん病院での研修を希望した理由としては幡多地域の中核病院であり幡多地域の医療を支えている病院であるということやそのために多くの症例を経験できること、病院全体の雰囲気がとても研修しやすいと感じたこと、学生として実習で回らせていただいた際の先輩研修医の先生がとても生き生きと研修をされていたことなどが挙げられます。

研修中には様々な科の上級医の先生方に熱心に

指導していただくことができました。幡多けんみん病院では医局が全科で一つとなっており困った際に相談しやすい環境であったことも研修生活を充実させる一つの要因となっていたと思います。またコメディカルスタッフの方々にも丁寧に指導していただき、多くのことを学ばしていただきました。ルートの取り方のコツや内視鏡操作のコツ、放射線画像の撮影法など日々忙しい中、嫌な顔をせず親切に教えていただき病院全体として研修医を育てて頂けていることを実際に肌で感じることができました。更に患者さんも地域柄もあり優しい方が多く、患者さんと接する中でも多くのことを学ばして頂き他では得難い経験をさせていただいたと感じています。

実際に患者さんを上級医の先生の指導のもと主治医として担当させていただいて検査や治療方針などを決定していく中で非常に多くのことを勉強することができたと思います。

初期研修医として研修をさせていただくのはあと1年を切ってしまいましたがこれからも更に成長していけるように日々精進を重ね、幡多地域の方々に還元できるような医師を目指していきたいと思っています。

【初期臨床研修医2年目 松岡溪太】



先輩研修医の声

平成30年6月

今年度から社会人として、医師として一年目になりました。臨床研修が始まり三か月が経とうとしています。思い返してみればあっという間の三か月ですが、一日一日は大変充実しています。最初は、初めての病棟業務や日当直など右も左も分かりませんでした。指導医の先生方や病院スタッフの方々のお力添えもあり少しずつ慣れてきました。

私がけんみん病院で働きたいと思った大きな理由は、先輩の影響と病院全体の雰囲気良かったからです。学生の時、けんみん病院を実習させていただいた際に先輩方が手際よく救急対応しているのを見て、ここで研修をすれば先輩のようになれるのではないかと、思いました。病院スタッフ間だけでなく診療科同士の連携もとれており、医局は職種を超え同じ空間なので何か困ったときにすぐ聞くことができます。患者さんひとりひとりに合わせた問診、身体所見の取り方、診断に至るまでの経緯や治療方針などを指導医の先生方が熱心に、かつ丁寧に指導してくれます。

けんみん病院は高知県西部の医療を担う大きな役割を背負っており、子どもから高齢者の方まで幅広い年齢、主訴の患者さんが来院されるため、さまざまな経験を学ぶことができます。

これからの初期研修の二年間は、何事にも積極的に挑戦して実のあるものにしていこうと考えています。また、私が学生の時に見た生き生きとしていた先輩と同じ姿を、今度は私が見せることができるように、まだまだ未熟者ではありますが初心を忘れず日々精進していきたいと思っています。

【初期臨床研修医1年目 伊藤孟彦】



自分の社会人第一歩目、研修医としての生活が始まり、あっという間に3ヶ月目が終わろうとしています。幡多けんみん病院での研修は、ドクターはもちろんのこと、医療スタッフの皆様方にも優しく受け入れていただき、いつも助けられながら、たくさん学びを得ています。同期にも恵まれ、お互いに支えあいながら、この数ヶ月を一所懸命に走ってきました。

研修場所として幡多けんみん病院を選んだのはなぜかとよく聞かれますが、私はこの病院の雰囲気が好き、と答えます。幡多けんみん病院は、高知市内の救急病院と比べると医師の数も少なく、病院としての規模は少し小さくなりますが、幡多地域の砦としての機能をしっかりと担っています。地域の病院と連携しながら慢性期の患者様を診ることもあれば、救急病院として三次救急まで対応することもあります。そして、その砦を支えているのは、医師や医療スタッフ同士のチームワークだと考えています。ひとつの医局にすべての診療科の医師がおり、お互いに頼れる関係性を築いています。他職種でのカンファレンスや勉強会もあり、医療スタッフの皆様とも距離が近く、相談しやすい環境にあります。こういった、各々の強みを生かし、それらを共有し力を合わせることで、最善の医療を提供

先輩研修医の声

平成30年6月

する、という姿勢を見て、私はこの病院に惹かれ、ここで働きたいと思いました。

まだまだひとりではなにも満足にできない未熟者ですが、自分が担当した患者様から「ありがとう」と声をかけていただくことがあり、医療人として何より嬉しく、もっと頑張ろう、という気持ちになります。私は医療人として、自分なりに故郷の高知県に恩返しがしたいと思っています。そのための第一歩を幡多けんみんな病院で過ごして良かったと、胸を張って言えるように、長いようで短い時間を、精一杯過ごしていきたいです。

【初期臨床研修医1年目 前田美咲】



私は学生の頃から当院で実習させて頂く機会があり、当時から幡多地域の急性期医療を一挙に引き受ける病院の特性に惹かれていました。

昨今では病院の役割分担が進んでいて、軽症患者が集まる病院もあれば重症患者が集まる病院もあります。その中で、当院のように分け隔てなく全て受け入れる病院は稀だと思います。

軽症から重症まで、疾患の頻度や医療の実際に肌で感じること。それがバランス感覚の優れた臨床医になるための必要条件だと考えたので、ぜひ医師としての基本姿勢をここで身につけたいと思い、当院での研修を希望させて頂くことになりました。

た。

まだ研修が始まって間もないですが、これほどまで初期研修に適した病院はないと感じております。垣根の低い医局、優秀な同期、求めればどこまでも深められる環境…幡多に住む方々の優しさに包まれながら、温かいスタッフの皆様のおかげで充実した日々を送っており、この場を借りて感謝申し上げます。

私が医師になった経緯は決して真っ直ぐな道ではありませんでした。しかし、様々なことを経験して医学を学んだからこそ、形成された価値観も確かにあります。それこそが私の医師としての懐の深さになると信じて、大切に磨いていきたいと思っています。

未熟者ではありますが、患者様に寄り添う良医になれるよう努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

【初期臨床研修医1年目 田村康晃】



幡多けんみんな病院での研修が始まり、4カ月目に入ろうとしています。業務や環境にまだまだ慣れず分からないことも多いなか、研修中の診療科の先生方をはじめ、他科の先生・コメディカルスタッフ・事務の方々に助けていただきながら、充実した研修生活を送らせていただいていることに感謝するとともに、一日でも早く医師として貢献できるよう

高知県立幡多けんみんな病院

〒788-0785 高知県宿毛市山奈町芥奈 3-1

TEL 0880-66-2222

URL <http://www.pref.kochi.lg.jp/hata/>

先輩研修医の声

平成30年6月

日々精進しています。

初めてこの病院に来たのは大学低学年の時、医局についての説明をしていただく中で「各診療科の垣根が低い」という言葉が使われていました。その当時は、先生方がワンフロアに一堂に会しているという程度にしか捉えていませんでした。しかし、学年が上がるにつれて、また実際に業務に就かせていただくようになって、その意味が少しずつ分かるようになってきました。幡多地域は高齢者の割合が高く、1人の患者さんが複数の疾患を同時に有していることが珍しくありません。そのため治療方針や薬剤調整などにおいて他科の先生に相談する機会が多く、各診療科の垣根が低いこの病院の医局では、そういった光景が日常的に見られます。働く側にとっては働きやすい環境であり、治療等を行う上でも有益なことであると感じています。

初期研修では、将来専門とする診療科に囚われることなく、知識や技術を吸収していくことが必要だと考えています。もちろん業務の状況によりますが、この病院では多くの方々の協力もあって、いろいろなことを経験・訓練することができ、一例としては機材を借りて手技のトレーニングをするなど、希望すればそれに応えてくれる環境を作ってくれています。今後の研修でもこの環境を生かし、積極性を持っていろいろなことに取り組んでいき、医師として、そして人として成長していきたいと思えます。

【初期臨床研修医1年目 宮内敦史】



初期研修医として幡多けんみん病院での研修が始まり3ヶ月が経とうとしています。まだ数ヶ月しか経っていませんが、学生の頃の机上での勉強と臨床での勉強の違いを実感しています。知識が大切であることに変わりはありませんが、臨床ではその場での決断力や実行する力が重要であると身にしみて感じています。これまでは知識だけでも良かったのですが実戦では手技的なものはもちろん、どんな病気を想定してどのような検査をするのか考えなくてはならず実際に現場に立たないとわからないことが沢山あります。わからないことは先輩の先生方やコメディカルの方々にいつも優しく教えて頂いています。

幡多けんみん病院は地域の中核病院を担っており様々な疾患を経験できています。けんみん病院の先生方やコメディカルの方々は自分たちが診なければ患者さんを高知市にまで行かせることになるという自負のもと、この地区でなるべく完結できるように医療に従事していらっしゃいます。僕もそういった強い精神性を身につけられるよう励んでいきたいと思えます。

また、けんみん病院は医局が一つしかなく同じ空間に全ての科の先生方がいらっしゃるという特徴があります。これは研修医としては大変有難く、全ての科の先生とのコミュニケーションが取りやすく、困ったことがある時に質問しやすい環境にあります。医師以外のコメディカルの方も分からないことがあればいろいろと分かりやすく教えていただけるので大変働きやすい環境だと実感しております。

働き始めてまだ数ヶ月しか経っておらず、まだまだ先輩の先生方には遠く及びませんが暖かく見守って頂けると幸いです。これからよろしくお願いたします。

【1年目研修医 熊澤 大記】

先輩研修医の声

平成30年6月

幡多けんみん病院での研修が始まり早3か月。振り返ってみると治療方針の立て方、その方針に沿った検査や処方内容の選択、多くの医療手技など、実際に医療を行う難しさを感じた3か月でした。現場に実際に出てみると、分からないことや自分がどう行動すべきか困ることが多々あります。その度に指導医の先生方や多くの医療関係者の方々に助けをいただきながら少しずつ成長させていただいています。

幡多けんみん病院での初期研修は、基本的に1診療科に研修医1名というシステムになっています。それゆえに多くの症例を経験でき、さまざまな手技も数多く経験することができます。指導医の先生方も臨床的な考え方や手技のコツなどを丁寧に指導してくださり、内容の充実した初期研修を過ごすことができます。また看護師さんや検査技師さんなど周りの医療関係者の方々も快く指導してくださります。そういう環境で研修できる事が、皆さんの期待に応えられるよう頑張ろうというモチベーションアップにも繋がります。

最後になりますが、私は幡多地域出身で地元の医療の中核を担う幡多けんみん病院で研修できていることを誇りに思っています。自分が今できることは数えられるくらいしかありませんが、それでも地域の方々に感謝していただけたりと本当に嬉しいです。少しでも早く幡多地域の医療を支えられ、地域の皆さんから必要とされる医師になれるよう、これからも日々努力し成長していきたいと思っています。

【初期臨床研修医1年目 濱田幸汰】

